

2023 蒼輝祭結果

◆1年生合唱

- 1位 1年1組
- 2位 1年2組
- 3位 1年6組



(1年1組の合唱風景)

《審査講評》

男女の人数バランスや曲の難易度の違いもありましたが、男性の声と女性のをいかにうまく活かして聞かせられたか、合唱映えする選曲が出来ていたかどうかで差がついたように思います。1年生の皆さんは、高校に入学してまだ2ヶ月半しか経っていないにもかかわらず、どのクラスも団結力がよく感じられる素晴らしい合唱でした。

(以下審査員コメント)

1組 「チェリー」・「キセキ」

- ・声がしっかり出ている、パートごとのバランスもよかった。
- ・強い一体感、まとまり感が感じられた。
- ・指揮者が伴奏者や歌唱者をよく見て振れていた。

2組 「COSMOS」・「空も飛べるはず」

- ・男女がそれぞれのパートをしっかりと歌い、バランスがよかった。掛け合いやハモリも美しかった。
- ・合唱に適した選曲ができていた。
- ・最後まできちんと歌いきっていてよかった。

3組 「Answer」・「群青」

- ・難しい曲に積極的にチャレンジできていた。
- ・女声パートのリードがしっかりしていた。
- ・男声の聞かせ方にもっと工夫があると、さらによかった。

4組 「栄光の架け橋」・「世界に一つだけの花」

- ・クラスのまとまりが伝わってくる歌声だった。
- ・歌っているときの表情がよく、曲のあたたかい感じが伝わってきた。
- ・全体的に強弱や変化をつけられると、さらによかった。

5組 「A Whole New World」・「Try everything」

- ・英語で歌う難しさに対するチャレンジ精神が感じられた。
- ・女子が多かったが、バランスがとれていた。女声をうまく活かしていた。
- ・1曲目と2曲目が違うタイプの曲で対比が良かった。

6組 「水平線」・「君をのせて」

- ・全体としてしっかりとした発声できていた。
- ・女子が少ないにもかかわらず声がしっかりと聞こえてきて、みんなの歌声のバランスがよかった。
- ・サビの部分に迫力があってよかった。

◆2年演劇（短編）

- 1位 2年3組『オズのまほうつかい』
- 2位 2年2組『千と千尋の神隠し』
- 3位 2年5組『Alice in Wonderland』
- 特別企画賞 2年6組『ロミオとジュリエット』
- 最優秀演技賞 善利 ゆずの（2年5組）



2-3『オズのまほうつかい』より

《審査講評》

2年生になって、初めての演劇への挑戦でしたが、各クラス様々な工夫が見られ全体的にクオリティの高い仕上がりになっていたと思います。ただし、せっかくの台詞がBGMと重なり聞き取りにくかったシーンが見られたことが少し残念でした。台詞は見る人に確実に伝わるよう、観客の方を向いて大きな声ではっきりと話すことが大切です、リハーサルでの音量チェックも重要だと思います。来年度はよりオリジナリティにあふれた、レベルアップした演劇になることを期待しています。

（以下審査員コメント）

1組『SPY×FAMILY』

- ・心の中の声など工夫されていた ・犬の声がよかった。
- ・人気漫画をベースに学校の設定がよかった。 ・暗転が多かったのが残念。

2組『千と千尋の神隠し』

- ・大道具や小道具に工夫があり楽しかった。 ・それぞれの配役の特徴をとらえられている。
- ・道具が効果的に使われている。 ・間延びしたところもあった。

3組『オズのまほうつかい』

- ・暗転がない中で舞台が工夫されていた。
- ・プロジェクターの映像が効果的。
- ・音響（効果音）が上手い。 ・言葉のつなげ方が自然。

4組『白雪姫』

- ・ダンスや歌を取り入れ工夫。 ・笑いもあり、楽しく観られた。
- ・間の取り方が絶妙。 ・オリジナリティあり。
- ・暗転が多かった。

5組『Alice in Wonderland』

- ・丁寧でわかりやすい英語。 ・視覚に訴えるきれいな衣装、大道具であった。
- ・台詞に気持ちが入っていてわかりやすかった。 ・テンポがよい。
- ・暗転長いところあり。

6組『ロミオとジュリエット』

- ・客席や中幕をうまく使っていた。
- ・感情を込めて台詞が言えており、演技が上手かった。
- ・声を張って台詞がわかりやすい。
- ・大道具がもう少しほしかった。

◆3年演劇（長編）

- 1位 3年5組 『Orange』
- 2位 3年6組 『リケ恋』
- 3位 3年3組 『鍵泥棒のメソッド

～another story～』

特別企画賞 3年4組 『ぼくらの七日間戦争』

最優秀演技賞 吉村 拓真（3年3組）

〃 三輪 海陽（3年5組）



3-5 『Orange』より

≪審査講評≫

結果的には順位がつけましたが僅差であり、いずれも、3年生らしく見ごたえがあり、下級生の手本となる作品であったと思います。

以下は、来年度の蒼輝祭に向けて、1、2年生に参考にしてほしい点を中心に書きます。3年生は、以下の点をさらにブラッシュアップすれば、一層すばらしい作品になったであろうという視点で読んでください。

○今回、教員審査員の審査の中で、「テーマ」と「発声」の2つの観点が議論の中心となりました。各クラスとも、出演者は演技することに無我夢中であったと思いますが、その演技が観客に届いているか、観客に楽しんでもらえているかといった、「観客を主体」とした一歩進んだ視点をもって取り組めていたのでしょうか。

*「テーマ」

その作品で、何が伝えたかったのか。クライマックスに向けて収束し、盛り上がっていくようなテーマがあったのかどうか。

*「発声」

観客に会話が聞き取れたかどうか。事前に台本に目を通して審査員でも、「？」と思った部分がありました。初見の観客にとって、演者が何をしているのか、何を言っているのかがしっかりわかりやすく伝わるといことは大変大切なことです。

○上記の観点をしっかり押さえるためには、練習ももちろん大切ですが、最も大切なのは「台本」です。準備期間が短い中、いちから台本を考えるのも、原作を40分の劇に集約するのも、本当に大変な作業だったと思います。願わくば、さらに複数の目で台本やそれに基づいた演技を吟味し、初見の観客に伝わるかをチェックすることができると、さらに磨かれた作品になったのではと思います。

○そういう意味では、事件の背景や場面設定などが甘い部分もあり、無理な展開が見受けられたり、全体的に暗転（場面転換）が多く、話がとぎれてしまい、なかなか流れに乗り切れなかったりという作品もありました。流れができてこない、観客にとっては理解しにくい作品となってしまいます。各場面が本当に必要なシーンかどうか吟味し、暗転の回数を減らしたり、暗転時に観客を待たせるのではなく、音楽やナレーションを入れて次のシーンをワクワク待てるように工夫したりしてみましょう。

1組 『ルパン三世』

名作「カリオストロの城」を演劇でと、それぞれの役になり切っている役者の駆け引きを楽しく鑑賞できました。観客席を走り回る捕物場面、役者の動きに合わせた音響や照明の使い方など、演出にも工夫が見られました。ただ、あまりにも著名な作品であり、多くの観客が話の結末やクライマックスへの盛り上がりを知っている中で、それを演ずる難しさも感じました。ルパン、次元、五右衛門、銭形警部等、それぞれ癖の強い登場人物のものまね（舞台で演じるための発声になっておらず、聞き取りにくかった。）に終始した感があり、オリジナル感が薄かったことが残念でした。

2組 『99.9 刑事専門弁護士』

推理小説では、観客も「この後どうなるのか」を考えながら、演劇を観ることになります。そういう意味では、鑑賞する際の向き合い方が、他のクラスの演劇とは異なりました。全体的に役者の動きは大きくはなく会話中心の展開でしたので、引き込まれれば引き込まれるほど、役者の一言一句を聞き取ろうと集中しました。ただ、残念だったのは、使っている言葉が難しかったこと、会話が聞き取りにくかったこと（発声、話す速さ、効果音に声量が負けている）、暗転（場面転換）で話がつながりにくくなった場面があったことです。観客と一緒に推理しながら進めるには、どうすればよいのでしょうか、そういう意味では、果敢にチャレンジしてくれた作品であったと賞賛したいと思います。

3組 『鍵泥棒のメソッド ~another story~』

話の展開や場面設定は現実的には無理があるようにも感じましたが、主人公と殺し屋（逃がし屋）のやりとりを楽しく鑑賞させてもらいました。加えて、中心となる二人以上に存在感を示していた悪役親分の「山崎」、妙な緊張感を漂わせてくれました。ただ、残念なのは、最終的に何を伝えたかったのか、観客に投げかけるものはあったのでしょうか、その部分が弱かったように感じました。

4組 『ぼくらの七日間戦争』

急な学級閉鎖にもかかわらず、よくまとめ上げた、まずはその努力をたたえたいと思います。声もよく出ており、アクロバティックな演技もよかったです。ただ、今ひとつ伝わらなかったのは、最後のおちは何であったのでしょうか、警察が悟っていたようでしたが、・・・、彼らは別世界に行ったのでしょうか、・・・ここが少し「？」でした。ちなみに、「犬」の存在が際立っていました。

5組 『Orange』

「友達を救ってほしい」という、未来の自分からの手紙、パラレルワールドとか、SFめいた冒頭ではありましたが、必要以上にSF部分に引っ張られず（未来から手紙が届くということは、未来ではタイムトラベルができていけるのでは。時代を変えると、新たなパラレルワールドができるって、そんな単純なものか、とか、SF好きな人はこだわってしまう部分もありましたが・・・）、高校生どうしが絡み合う本質的な展開の方に引き込まれました。クライマックスに向かって、よくつながった展開であり、胸が熱くなるようなシーンもあり、感動を引き起こしていました。場面転換の際のつなぎ方をはじめ、演出にもいろいろな工夫が見られ、会話も非常に聞き取りやすかったです。

6組 『リケ恋』

「どっぷり理系にはまる」ということがどういうことなのか、恋愛ですら、根拠や考察、証明と、とにかく、ものごとを観る観点が「理系？」っぽくて、話の流れに引き寄せられました。花火大会での理系カップルと通常(?)カップルとのギャップもおもしろかったです（もっと極端でもよかったかも）。「理系用語」の連発でしたが、声もよく出ていて、会話も聞き取りやすかったです。

蒼輝祭（体育祭）結果

競技の部

大縄跳び

1位…3-3 2位…3-5 3位…2-4

(1年生1位…1-1 2年生1位…2-4 3年生1位…3-3)

学年混合スピード玉入れ

1位…6団 2位…4団 3位…1団

障害物リレー

1位…3-4 2位…3-3 3位…1-1

(1年生1位…1-1 2年生1位…2-4 3年生1位…3-4)

クラス対抗リレー

1位…3-1 2位…3-3 3位…2-6

(1年生1位…1-1 2年生1位…2-6 3年生1位…3-1)

★総合 1位…3-3 2位…3-1 3位…1-1

クラスパフォーマンス

1年 1位…1-1 2位…1-5 3位…1-3 2年 1位…2-3 2位…2-5 3位…2-1

3年 1位…3-6 2位…3-2 3位…3-4

★総合 1位…3-6 2位…3-2 2位…2-3

バックアーチ

1年 1位…1-5 2位…1-3 3位…1-4 2年 1位…2-5 2位…2-6 3位…2-4

3年 1位…3-4 2位…3-5 3位…3-6

★総合 1位…3-4 2位…3-5 3位…3-6

★総合の部（競技+クラスパフォーマンス+バックアーチ）

1位…3-3 2位…3-4 3位…3-1 4位…3-6 5位…3-5 6位…2-6



開会式の様子



大縄跳び



障害物リレー



クラス対抗リレー

講評【クラスパフォーマンス】

どのクラスも掲げるテーマに沿って様々な工夫が見られたクラスパフォーマンスだったと思います。限られた時間の中、全員がしっかりと振り付けや動きを覚えていて、小道具や衣装でも魅せるための工夫がされていることが上位と下位との差だったのではないかと思います。

1・2年生は、来年度もより創意工夫にあふれたクラスパフォーマンスになることを期待しています。

1-1 よくまとまっていた。動きがそろっている。フォーメーション良かった。

1-2 場所を大きく使っていた。アップテンポな曲をうまく使っていた。

1-3 キラキラが効果的。テーマが明確。綺麗でよくそろっていた。

1-4 シンプルで良い。自然な演技でした。隊形の変化はスピーディー。

1-5 元気があって良い。指先まで注意できていた。隊形整っている。

1-6 ♡がきれいでした。振り付け可愛い。強弱があって良い。

2-1 ポンポンが生きていた。小気味よいダンス。ラインの演技は素晴らしい、工夫がある。

2-2 アットホームな感じ。衣装が合っている。楽しさににじみ出る演技。

2-3 独創的。ユニークでアーティストチック。動きのない人がピシッと立っている姿が良い。

2-4 衣装の工夫あり。フィールドを大きく使っている。大きな演技ができた

2-5 静と動。黒の衣装に手の動きが映えた。力強さを感じられる。出だしが圧巻。

2-6 見ていて楽しかった。ユニークな振り付け。衣装をうまく使っている。

3-1 広く使っていた。エネルギーギッシュ。生き生きとしている。よく練習してきたことがわかる。

3-2 フォーメーションが良かった。音楽に乗っていた。力強い、躍動感がある。

3-3 声良かった。スタイリッシュに感じた。大きくフィールドを使う、声がよく出ている。

3-4 よくまとまっていた。王道的振り付け。ポンポンの工夫。元気！

3-5 衣装チェンジが良かった。エレガントなイメージ。落ち着いた出だし。丁寧。

3-6 衣装・おどり両方 good。動きを大きく見せている。衣装の彩りが良い、大きな動きが表現できていた。



3年6組のパフォーマンス

講評【バックアーチ】

今年度のバックアーチも、動的なもの、静的なもの、シュールな幻想的なもの、可愛いものなど、力作揃いでした。

審査においては、毎年、次のような点が重視されています。バックアーチは自分のクラスの団結力や体育祭にかける思いを表現しチームを鼓舞する性格のものだと思いますので、その強い思いが発散されているかということです。

せっかくの作品ですから見る人にはじっくり見てほしいところですが、パッと見たときに何が伝わるか、伝わるものがあるかどうか大切です。また、今回の採点は、バトンに吊るされた状態でのものです。バックアーチは高い位置に吊るされていますので、遠くから見て、見る人の目にどう映るか、見る人に何が伝わるかということを想定して作成することも重要です。細部を作りこむことも大切であるとは思いますが、残念ながら遠くからでは細かな部分はあまり識別できません。

以上のような観点から、各学年、総合で上位に入賞したバックアーチほど、細部の描写もすばらしかったのですが、それ以上に、遠くから見て、盛り込んだアイデアや思いが強く伝わってきました。



3年4組のバックアーチ

今年の蒼輝祭、皆さん楽しんでもらえましたか？コロナによる制限がなくなり、クラス全員で歌い、感情を込めて声を出しながら演じた文化祭。大声をあげて全力で競技に取り組み、応援した体育祭。準備の取り組みから本番まで、嬉しかったことも悔しかったことも、すべてみんなにとって一生の財産です。この蒼輝祭をきっかけに、皆さんがさらなる飛躍を遂げることを願っています。3日間、本当におつかれさまでした！（生徒会）